

読売新聞 きょう（9月8日）のイチ押し

1面 コロナ行動制限 秋に緩和（本紙の独材です）

政府は、新型コロナウイルスのワクチン接種の進展に合わせて、10月以降、段階的に行動制限を緩和する方針を固めました。緊急事態宣言下でもワクチンを接種済みであれば、県をまたぐ移動を認め、イベントの収容人数の上限を引き上げます。飲食店での酒類提供でも制限を緩めます。

- ★ 9日にも、首都圏などで緊急事態宣言の延長を決めるのに合わせて、行動制限を緩和する内容を盛り込んだ基本方針を決める見通しです。
- ★ 行動制限の緩和はワクチン接種が前提となるため、接種証明書を国内で利用する際の指針も近く公表します。商品価格の割引やお店に入る時の提示など、幅広く活用を認める内容になります。ただ、未接種の人が就職や入学などで不当な差別を受けないよう求めます。

社会面 10代のワクチン接種急ぐ

新型コロナウイルスの感染対策で、自治体などが10歳代へのワクチン接種を急いでいます。若い世代の感染者が急増していて、2学期が始まった学校や子育て中の家庭で感染拡大が心配されるためです。

福井市内の商業施設に設けられた接種会場では、今月4日、12歳以上の小中高校生を対象とした優先枠が設けられ、約60人が訪れました。9月中旬までに240人分の優先枠を設定しましたが、すぐに予約が埋まり、中旬以降もさらに240人分の枠を設けます。

ほかにも優先接種を進める自治体は多いようです。

学校での集団接種は差別やいじめにつながる恐れがあるため、各自治体は学校ではなく、一般の人も接種する会場で行うなど工夫しています。

他紙と比べて

文化遺産の保存・継承に顕著な業績をあげた個人や団体を顕彰する、本社主催の「読売あをによし賞」の受賞者が決まりました。「本賞」には、藍の栽培から加工・染色までを一貫して行う「正藍染（しょうあいぞめ）」を継承する宮城県栗原市の千葉まつ江さん（91）が選ばれました。奨励賞や特別賞と併せて文化面で紹介しています。